

私は農家の生まれのため、子供の頃はよく草取りの手伝いをしました。それは大変な作業でしたが、父は畑に草が生えているのは農家の恥だと言って、私たちに手抜きを許しませんでした。昔の農家では子供も働き手でした。

私はこの時の習性で今でも草取りは手抜きが出来ません。雑草は小さいうちに取り除かないと、種が落ちてからでは、その後の作業が大変です。小さい草を抜くときはいつも、戦国時代を思い出します。TVドラマなどで、戦いに勝った者が敵将の小さな子供まで殺してしまうという残酷なことです、この事を雑草と重ねてしまうわけです。雑草も小さいときはかわいらしく見えますが、必ず大きくなって畑を荒らします。

私は自宅の庭と少し離れた場所(山林を開拓した場所で私はこの場所を”道場”と呼んでいます)の2か所に畑を持っていますが、特に自宅の芝の草取りは春から夏にかけては毎日のように行います。中には芝と区別がしにくい雑草があり、根本から取り除くのが難しいため、とり除いたと思っても、良く探すと必ずどこかに敵将の子供が潜んでいます。雑草魂などと言いますが、素晴らしい繁殖力と生き残る知恵を持っています。芝生に生える草では種の数で勝負するカタバミがあります。この種の雑草はとにかく種を飛び散らす前に退治することが大事です。ところが、1本でも他の植物の陰に隠れて成長したものとあると莫大な数の種をまき散らします。カタバミはまた大きくなると根を深く張るため芝生の中から引き抜くためには、草取り器具を深く差し込み芝生と共に掘り起す必要があります。この場合芝生が大幅に痛みますが、芝生の根切り作業の代わりとなることもあります。しかしながら、私は、カタバミは小さいときにピンセットで引き抜く方法が最も効果的であるとの、結論に達しています。

芝生の中では芝と区別しにくいものがあります。動物で言う擬態に相当するもので、この雑草の代表はツメクサです。ツメクサは芝と色が似ていてしかも草丈が低いので、慣れないと探すのに苦労します。カタバミも探しにくいのですが、こちらは鮮やかな黄色の花を付けますので、取り残したものでも、この時点で除去できます。



カタバミ



ツメクサ

芝丈が低いうちは区別できて芝が大きくなると、うまく隠れて生き延びるものがあります。このために、芝刈りも頻繁に、特に庭の角まできれいに刈ることが雑草退治の上からも重要です。



自宅の庭(20170422IMG3920)

一方山の畑(道場)にもいろいろな雑草が生えます。この道場はもともと山林のような場所を年月かけて開拓した畑であり、かつ、今でも周りは山林なので雑草は絶えることはありません。開拓時は、そこに繁殖していた、藤と竹が主な駆除対象でしたが、現在の主役はヤブガラシです。ヤブガラシは種もたくさん付けますが、その最大の生き残り策は根を残すことです。ヤブガラシは相当大きくなったものでも簡単に引き抜くことができますが、横に長く伸びた根の部分は地中に残り、ここから芽が生えます。根を除去しないと再び生えるので、スコップを深く差し込んで根から取り除くのですが、この根は藤や竹と同様に横に長く伸びていて、しかも、藤や竹よりも巧妙なのは自分の根を容易に切ることです。横に伸びた根は果樹や植木の根元も通っているので、完全に除去することは困難です。小さなかけらのような根が残っても、そこから芽が生えます。実に見事な生き残り戦術です。



開墾前の道場(2010 年)



2016 年の道場



ヤブガラシ



ヤブガラシの根

草取り作業を少しでも楽しくするために草の名前を覚える努力をしたことがあります。

Web を検索し、雑草の名前を調べましたが、なかなか覚えられません。例えば、オヒシバ、メヒシバ、スベリヒユ、エノコログサ、カヤツリグサ等は当初は、その意味が、さっぱり判りませんでしたが、漢字や、由来を調べるとなるほどと思います。雄日芝、雌日芝、はなるほどと思いましたが、スベリヒユはヒユ科の植物で、茹でたときに出るぬめりからつけたのではないかとの解説でしたが、なるほどとは思われませんでした。この草はω-3 脂肪酸を含む植物で、広く食用されているそうです。この草は私の畑に次から次へと生えてきます。

次にエノコログサは犬のしっぽに似ていることから犬っころくさが転じてエノコログサという呼称になったらしく、この説明は納得しました。また、ネコジャラシ(猫じゃらし)の俗称は花穂を猫の視界で振ると、猫がじゃれ付く、ことから付いたようです。私はこの花穂を見たとき試験管を洗うブラシを連想したので、個人的な俗称は試験管ブラシです。

カヤツリグサは「蚊帳吊り草」の意味で、昔、この植物の茎を引き裂いて蚊帳を吊ったような四角形を作る子供の遊びがあったことに基づくらしいが、私はこの草を逆さまにすると、線香花火を連想したので、私の俗称は線香花火としました。



雄日芝



雌日芝



スベリヒユ



エノコログサ



カヤツリグサ

雑草の名前を覚える努力を始めたころは、家の近くを散歩する時とか、最寄りの JR 駅(勝田)まで歩く途中に絶え間なく生えている雑草の名前を確認しながら歩いたので、これまでに比べて、短い時間で到着するような印象をうけました。

草取りはその草が小さいときほど簡単に除去できるので、最近では極力若いうちに引き抜く努力をしています。余りに小さい草は成長した草との関連がイメージできないことがあったので、自宅に芽を出した草を鉢に植えてその成長を観察したことがあります。この研究は大した苦労もなく出来ましたが、中には上手く育たない草もありました。自然に生えて困る草なので、どんな環境でも育つと考えて、適当に植えましたが、雑草でも、良い環境でないと育たないことが判りました。





庭に生える雑草を鉢植え(右側が移植して 20 日後)

我が家の雑草は、自分が現役の時はなかなか取り切れなくて、雑草が茂っていた時期もありましたが、晴耕雨読とテニス三昧の生活になってから庭の雑草はずいぶん少なくなりました。今では雑草を取るとき、昔の生家の事や、今は亡き両親の事、を思ったり、歴史

の事を思ったり、時には雑草に話しかけたりして楽しく作業をしています。雑草からきれいな花としての地位を得たものや、薬や食用としても活用されているものがあるので、科学のこと、ゲノム編集の事まで考えながら作業することもあります。当初、私は庭の雑草を O にしようと思いましたが、それは不可能であることも、判りました。これからも末永く雑草とともに暮らしていきたいと思っています。

2017 年 7 月 2 日